

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 山口県 】

学校名【 下関市立豊北小学校 】

1 実践テーマ	I・II (III)・IV・(V) (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	豊北小学校4年生児童25名 5年1組児童20名、5年2組児童21名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(総合的な学習の時間) ② 行事名() ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> 車いすバスケットボール選手との交流を通して、個人の特性に応じてスポーツに親しみ、豊かな生活を送っていることを知り、パラスポーツに関心・意欲をもつ。 車いすバスケットボールの体験を通して、多様な人たちと一緒にできるスポーツの楽しさや心の交流を味わい、思いやりの態度やスポーツを楽しもうとする態度を培う。
5 取組内容	<p>○事前学習 5年道徳「I'm possible」を活用した授業実践 「パラリンピアン香西選手ってどんな人だろう？」 5年総合的な学習の時間「パラリンピックについて調べよう」 5年図工「動きの不思議」オリパラ競技について紙粘土で表す。</p> <p>○山口県車いすバスケットボール連盟 村田和寛氏による競技説明 車いすバスケットボールの試合やルール説明映像を交えながら、車いすバスケットの競技や村田氏の思いについて学んだ。 実際に車いすに乗ったままシュートやドリブルをする選手の姿を間近で見ることができた。</p>



	<p>○田邊大介氏、村田和寛氏、安達颯真氏による運動教室</p> <p>車いすの基本的な扱い方を学んだ後、2人組でドリブルをしたり、ボール操作の仕方を学んだりした。その後、3分間のミニゲームを行い、全員ミニゲームに参加することができた。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>○車いすバスケットボールでは、障害の大きい小さいに関わらず、共に楽しむことができるようなルール工夫がされていることを知った。</p> <p>○障がいがあるなしに関わらず、一緒に楽しめる車いすバスケットを体験することで、世の中にはいろいろな人がいて、そんな人たちと一緒に楽しむことのすばらしさを実感した。</p> <p>○ほとんどの児童が、障がいがある方と接する経験は初めてだった。休み時間にも気軽に話しかけていて、障がいのある方に対する考えも変わったようだった。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○車いすを11台用意していただき、児童全員が車いすに乗ったりミニゲームを楽しんだりすることができた。</p> <p>○東京パラリンピックについて事前に本やインターネットで調べたり調べたことを発表したりしていたので興味をもって体験することができた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○本体験を通して、初めてパラスポーツに接し、「楽しかった」「車いすバスケットは、いろんな人ができるスポーツだとわかった。」という感想が多かったが、この体験を次につなげるためにも活動と活動の結びつきを考え、児童の思考をどのように深化させていくか検証する。そのためにも総合的な学習の時間の単元計画を工夫したり、他教科と関連づけたりして学習を更に深めていく必要がある。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○パラスポーツの選手に接したり体験したりすることで、児童の活動の意欲や感動が生まれたと考えられるので、今後も続けていきたい。4年生の総合的な学習の時間「福祉について調べよう」との関連からも他のパラスポーツにも関心をもてるようにしたい。</p>